

# ひぜんだより

肥前精神医療センター総合情報誌

第12号

2013. 1

# 初めての試み！

## 第1回 NHO精神科レジデントフォーラム

事務部長 仲地 善美

7月27日(金)13時～28日(土)15時まで、国立病院機構本部講堂をメイン会場とし、また、1階ホールに各施設のブースを設置して運営いたしました。

### 開催の経緯について

国精協施設では後期臨床研修医やレジデント医師が研修成果を発表し、評価、指導される場が少ないこと。また、施設間の若手医師間の交流も少ないこと。さらに、国精協施設の中には深刻な医師不足の施設が複数見られ、今後もこうした施設が続く懸念があること。

以上のことから、後期研修医の研修成果発表と研修、交流の場を設け、さらに国精協施設以外の精神科志望の若手医師にも幅広く参加を呼び掛けることにより、国精協施設の存在と活動内容を外に向けてアピールして、今後の医師確保に繋げる場として、精神科レジデントフォーラムの開催が提案されました。

その結果、時期については、「若手医師が翌年度の進路を決める前年7月の実施」、場所については、「若い医師が集中している東京で開催することが望ましい」ということになり、第1回目の幹事施設を肥前精神医療センターで担当することになりました。

### 精神科レジデントフォーラム開催の主な目的

- ・国精協施設で精神科の臨床研修をしている後期研修医がその研修成果を発表し、その発表内容について評価(優秀賞などの表彰)、今後の研修について助言を受ける。
- ・国立病院機構の病院あるいは国精協施設で研修している若手精神科医と指導医が相互に交流し、精神医学の研修と情報交換を行うことで、他の国精協施設の研修や医療の内容を知ってもらい、研修終了後も国精協施設内で勤務する医師が増えることを期待する。
- ・外部の若手医師にも参加を呼び掛け、国精協施設の充実した研修システム、あるいは診療内容をアピールする機会とし、来年度以降の医師確保に繋げる。

### 開催決定後の大まかな作業

- ・ポスター、チラシの作成、関係機関への送付、そのための、プログラム作成(特別講演演者の決定、依頼)、ホームページの作成
- ・インターネットを通じた参加者の募集
- ・ブースの設営のための機材のレンタル、交流会会場等の業者との調整
- ・準備段階での参加施設、発表者との調整
- ・発表原稿のとりまとめ、配布資料の印刷

### 開催当日の状況

- ・施設としての参加は12施設
- ・インターネットによる事前申込みは、実人数62名(うち学生は7名)、27日(金)44名(交流会25名)、28日(土)58名でした。
- ・当日が猛暑であったため事前申込みからの実際の参加者は、27日(金)35名(交流会13名)、28日(土)37名でした。
- ・2日間のプログラムでは、レジデントの発表者が11名、特別講演が4題、12施設の施設紹介、研修医OBの体験発表が2名、中味の濃いタイトなスケジュールでしたが、ほぼ予定通りに進行されました。

### 来年以降の開催について

来年は、久里浜医療センターが幹事施設を担当し実施することとなりました。



# 初めての試み！

## 肥前精神医学セミナー

### ～吉野ヶ里に伝わる臨床精神医学の奥儀～を開催

事務部長 仲地 善美

肥前精神医療センターは、古代に邪馬台国があった場所と伝えられる吉野ヶ里歴史公園のすぐ近くに位置し、東京ドーム6個分の広大な敷地内の中で、“児童思春期”、“精神科スーパー救急”、“精神科リハビリテーション”、“地域社会精神科医療”、“アルコール・薬物依存症”、“認知症”、“司法精神医学”、“精神科身体合併症”など、現代の精神科医療に求められるほとんどの機能を備えた、我が国でも数少ないオールラウンド型精神科医療機関です。臨床的教育研修にも長い歴史と豊富な実績があり、1980年代に精神科レジデントの専門教育を開始して以来、全国30以上の大学から来た数多くの若手医師が去来し、研鑽を積んできております。

さらに、平成22年10月には、大ホール、大会議室、2つのセミナー室、宿泊施設を備えた3階建ての医師養成研修センターがオープンし、研修医・レジデントのための良質な環境が整備されました。

このように精神科専門医を目指す者にとって、またとない研修環境と教育指導体制のアドバンテージを我が国の若手医師に広くアピールするために、医学セミナーを実施したいという機運が高まってきました。このたび、「吉野ヶ里に伝わる臨床精神医学の奥儀」をテーマに、病院をあげて精神学セミナーを開催した次第です。

本セミナーは、全国の精神科専門医を目指す若手医師や、将来精神科専攻を希望する医学生を対象とし、2日間かけて、特別講演、センター長講演、ワークショップ(4講座)などで構成されました。

セミナーの準備段階では、ポスターとチラシを作成し、全国の主な研修指定病院に送付して、セミナー開催への協力を依頼するとともに、当院職員も、学会場や、レジデント対象の就職セミナー会場等において広報に努めました。また、セミナー参加対象者の多くがインターネット世代であることを考慮して、参加登録は、専用開設したホームページを通して、メールにより受け付けました。その結果、北は北海道から南は宮崎県まで全国から50名の参加希望者がありました。

1日目は、病院見学の後、当院医師養成研修センター長(黒木俊秀)による「我が国の精神医学研究の傾向と対策」と題する講演、「児童精神医学」に関するワークショップ(小児科医長:瀬口康昌)、および元当院臨床研究部長の山上敏子先生による「方法としての行動療法」と題する特別講演が行われました。

なかでも、我が国における行動療法のパイオニアとして高名な山上敏子先生による特別講演には、精神科臨床の大家のお話をうかがおうと、セミナー参加者以外にも、近隣から多数の聴衆が詰めかけ、大ホール(定員250名)は満員の状態となりました。先生のご講演は期待に違わず、精神科臨床の奥深さを教えられる大変に感銘深いものでありました。

講演の終了後は、セミナー参加者と当院の医師、コメディカル他の職員との交流会(アルコール飲料はなし)を実施し、当院の業務と研修指導体制についてさらに参加者の理解を深めてもらいました。

2日目は、「司法精神医学・鑑定」(病棟診療部長:須藤徹)、「認知症・認知機能評価」(認知症疾患医療センター長:橋本学)、「アルコール関連問題の予防」(院長:杠岳文)などのテーマでワークショップが行われました。各ワークショップでは、当院の医師による講義の後、参加者相互の意見交換を行いました。活発な討論がなされました。

今回のセミナーは初めての試みであり、限られた期間内の準備となったため、多少の不備はあったものの、結果的には盛会に終わり、当院の職員にとっても有意義な機会となりました。今後も、優れた人材獲得に向けて同様の企画を試みてゆきたいと思っております。

**肥前精神医学セミナー**  
～吉野ヶ里に伝わる 臨床精神医学の奥儀～

平成24年  
**9/21(金)～9/22(土)**

**肥前精神医療センター**  
医師養成研修センター

**1000円**  
(懇親会や病院見学会もを行います)

医学生、初期・後期研修医、  
精神科専門医を目指す医師、  
その他精神科医療従事者

**特別講演**  
「方法としての行動療法」  
山上 敏子 先生 (早稲田大学 精神科医師)

**センター長講演**  
「我が国の精神医学研究の傾向と対策」  
黒木 俊秀 先生 (肥前精神医療センター長)

**ワークショップ**  
①「児童精神医学」  
②「司法精神医学・鑑定」  
③「認知症・認知機能評価」  
④「アルコール関連問題の予防」

主催：肥前精神医療センター  
セミナー事務局 肥前精神医療センター 事務局(肥前市) 肥前市保健福祉部 肥前市立病院  
tel:0952-92-9231 (教育研修部 吉野 風彦)

**参加者募集**  
締め切りは、9月7日

<http://www.hizen-hosp.jp/>



特別講演の様子



ワークショップの様子



懇親会の風景

# 認知症ケア研修を担当して

東四一病棟 副看護師長 吉野 俊一

平成24年10月22日から10月26日の5日間、当院医師養成研修センターにおいて認知症ケア研修を開催しました。昨年と大きく変わったことは研修会の名称を認知症看護研修から認知症ケア研修に変更し、看護職ではない方々も受講できるようにしたことです。研修内容として、新たにブリーフコーチングを開講し、期間も4日間から5日間にしました。受講希望者はすべて受け入れ、人数も30名余り増え、71名の方が受講されました。

研修は、当院の医師・看護師・管理栄養士・作業療法士・PSWによる講義の他、保健所や市役所の職員、認知症を抱える家族の会、摂食コミュニケーションネットワークの主催者、大学教授など外部講師の方からも講義をしていただきました。

各々の講師による、様々な視点からの趣向を凝らした講義は、充実した内容であり、受講生の学びも多かったとアンケート結果より伺えます。特に受講生からは院長からの、「脳を見る」の講義の中で、実際に顕微鏡で脳を見ることで、病気についてのイメージが付きやすかったとの意見が多く寄せられました。また、理論だけではなく、各施設での実践事例やご家族の生の声を聞けるなど、様々な立場からの意見を聴くことができ、視野が広がったと好評でした。

参加者は看護師が多数を占めましたが、保健師、ソーシャルワーカーなど多職種の参加があり、4日目のフリーディスカッションでは、職種を越えた各施設の実情をふまえた意見交換を行うことができました。私自身も講師として認知症高齢者看護(各論)の講義をさせていただいたことは良い経験になりました。講義後には研修生から話しかけていただき、認知症看護について副看護師長としてどのようにスタッフに関わっているのかなどの質問があり、意見交換ができ有意義な時間を持ってました。

今回の研修で学んだことを看護に活かすと共に、副看護師長として病棟にも学びを還元していきたいと考えます。

平成24年度認知症ケア研修プログラム

	9:00	10:00	11:00	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	17:00
10/22 (月)	受付				開校式	高齢者の生活習慣病 内科医長 原 俊哉 13:10-14:10(60)	休憩	アルツハイマー病 病棟副医長 角南 隆史 14:25-15:35(70)	休憩	非アルツハイマー型 認知症の診断と治療 神経内科医師 高島 由紀 15:50-17:00(70)			
10/23 (火)	認知症スクリーニングテストの実際 病棟医長 橋本 学 9:00-10:00(60)	休憩	高齢者の栄養 栄養管理室長 林 有里 10:10-11:00(50)	脳血管障害と認知症予防 生化学研究室長 八尾 博史 11:10-12:00(50)	昼食	認知症患の薬物療法と非薬物療法 病棟医長 橋本 学 13:00-14:15(75)	休憩	老年期のメンタルケア 国立病院機構池病院長 高松 淳一 14:30-17:00(150)					
10/24 (水)	認知症高齢者の地域ケアニーズ 介護保険制度から 佐賀中部広域連合 認定事業課 東海 千草 9:00-9:50(50)	休憩	地域ケア行政から 佐賀市保健福祉部 保健課 大坪 幸 10:00-10:50(50)	休憩	認知症高齢者を抱える家族 認知症の人と家族の会 佐賀県代表 森 久美子 11:00-12:00(60)	昼食	認知症高齢者の看護(総論) 看護部長 橋本 裕治 13:00-14:00(60)	休憩	認知症高齢者のリハビリテーション 作業療法士 岡田 祐博 14:15-15:15(60)	休憩	高齢者の摂食機能と食事援助 摂食コミュニケーションNW 理事兼 中島知夏子 15:30-17:00(90)		
10/25 (木)	脳を見る 院長 紅 啓文 9:00-10:45(105)	休憩	認知症高齢者のケアシステム PSW 平川 孝子 11:00-12:00(60)	昼食	認知症高齢者の看護(各論) 副看護師長 吉野 俊一 13:00-14:45(105)	休憩	認知症ケア実践(体験)の声 ブリーフィングセッション(情報交換) 横田 研治 西谷 博則 15:00-17:00(120)						
10/26 (金)	認知症ケアにおけるブリーフコーチングワークショップ 新潟青陵大学福祉心理学科 教授 荒木 重嗣 9:00-12:00(180)				昼食	認知症ケアにおけるブリーフコーチング 新潟青陵大学福祉心理学科 教授 荒木 重嗣 13:00-15:00(120)				休憩	閉校式		



講義の様子



院長による講義「脳を見る」の一幕

# 国際学会で受賞しました

精神科医師 久我 弘典

2012年10月25日より27日に韓国ソウルで開催されました、15th PRCP(Pacific Rim College of Psychiatry:環太平洋精神医学会総会)に、院内より以下の医師が参加し、発表致しました。

- ・飯田 仁志 「The role of Psychiatric emergency ward:with the prescription pattern」
- ・勢島 奏子 「Various Views and Approaches towards Severe Behavior Disorder in Japan」
- ・久我 弘典 「The significance of cross-cultural experience for Young Psychiatrists ~Through interaction in "The Joint Workshop for Psychiatric residents of Korea and Japan" ~」

なお飯田、勢島両医師は「Young Travel Award」を受賞し、私、久我は「Young Poster Award」を受賞致しました。三人を代表して、飯田医師の感想を紹介いたします。

私と勢島先生はYoung Psychiatrists Session内で口頭発表しました。内容は当院の精神科救急病棟ならびに、重症心身障害児(者)病棟についてでしたが、主催国の韓国はもちろん台湾、インド、中国、マレーシア、オーストラリア、ナイジェリアなど環太平洋圏だけでなく世界中の若手精神科医が集まり、議論を深めていました。

私にとって国際学会での初めての発表でありましたが、学会全体が非常に温かい雰囲気、ほどほどの緊張で臨むことができました。日本からも多くの先生方が参加されていましたが、やはり日本の現状をこのような国際学会で発信していくことが大事だと思いますし、直接各国の精神科医療を見聞きすることで、学べると思うことが多いと思います。

Young Travel Awardも受賞することができ、協力していただいた先生方には本当に感謝しております。学会で不在中は多くの方々にご迷惑をおかけしました。今後も、日々の診療を大切にしながら、常に広い視野を持って精神科医療に向き合っていきたいと思えます。医局の諸先生方、病棟スタッフの皆様にも厚く御礼申し上げます。(飯田 仁志)



後列左:久我 後列右:飯田  
前列:勢島

## 盛況 肥前セミナー二題

副院長 橋本 喜次郎

11月は、第94回と95回の肥前セミナーをセンターで催しました。

まず、9日(金)に、東京都監察医務院の福永龍繁院長をお招きして、「異状死の判断基準と医療関連死」をテーマに講演して頂きました。東京都監察医務院は、東京都23区内において発生する全ての異状死の検案と解剖を行います。

講演では、医療関係者のみならず、司法、警察関係内外多数の方々に来て頂き、いつもの肥前セミナーとは異なった空気の会場でした。(警察司法関係:57名、消防署関係:32名、介護関係:14名、医療関係:2名、総数131名)。改めて医師の職業としてのsocialな使命を、実感しました。

福永先生を囲む懇親会では、他では聴けない貴重なお話も頂き、たいへん楽しい有意義な一時を過ごしました。福永先生ありがとうございます。

30日(金)には、「医療と司法」と題して、奥田律雄先生にご講演頂きました。今年度から、当院の顧問弁護士を引き受けて頂きまして、その御披露も兼ねていました。

医師の家にお育ちもあって、奥田先生は医療現場への理解も深い方です。医療過誤の事件はもちろんのこと、「足利事件」をはじめ、刑事事件、少年事件など多くの事案を取り扱われたエピソードは、実感の込められた、興味深いものでした。また、ユーモアを交えたご講演は、その御人柄が伝わり、第2第3のシリーズを予感します。奥田先生、ありがとうございます。

どちらの講演も、ITテレビ会議を通して配信させて頂きました。楽しく、おもしろく、ためになる講演を、今後も皆様と共有していきたいと思えます。



福永 龍繁 先生



奥田 律雄 先生

# 明るい明日のための家族相談会（統合失調症家族相談会）について

家族心理教育委員会広報担当 西三病棟看護師 後藤 千恵

当院では統合失調症の患者さんのご家族向けに家族相談会を行っております。平成11年から開始し、現在までに200名近くのご家族に参加いただいております。

1クール6回で月に1回、同じ家族に対して講義とグループワークを実施していきます。統合失調症を抱えた患者さんの家族の多くは、戸惑い、悩み、孤独を抱え、患者さんと同様に支援が必要な存在です。家族は、患者さんにとっても医療者にとっても、大切な治療のパートナーです。

統合失調症患者の再発の原因とされる怠業と、家族の感情表出(高EE)についての関連が明らかになった研究結果が報告されています。家族が、患者さんに対して怒りや過干渉、巻き込まれなどの感情が強くなってしまいう原因には知識不足や不安、孤独などが背景にあります。そのような家族の不安を解消するために家族相談会があります。グループワークでは、自分の振り返りや他家族からのアドバイスが聞ける貴重な時間です。

家族は疾患について一人で抱えておられる事が多いです。この家族会で出会ったほかの家族とのつながりが、家族にとっても力になっているように感じます。私たち医療者は専門的なアドバイスはできるかもしれませんが、しかし、家族同士の経験から実感のこもった(魂のこもったというか)アドバイスにはかなわないといつも気付かされます。もちろん正しい専門的な知識を情報提供する事も大切です。家族同士のつながりを分かち合う橋渡しをしていることが、私たちスタッフにとってもやりがいになっています。

	テーマ
第1回	ご家族が元気であるために
第2回	統合失調症のはなし
第3回	くすりのはなし
第4回	家族の関わり方のはなし
第5回	リハビリのはなし
第6回	社会資源のはなし



## KOMI 推進担当者発表会 — 症状・病気をKOMIの視点でみる —

肥前看護師長会では、研究会活動を行っています。

平成22年度の活動の中核に「看護実践の理念」の構築があります。「2010HIZEN Nursing Spirit“ひとに寄り添い、こころに寄り添う看護”」、これは、ナイチンゲールの看護の考え方を基盤に精神看護理論モデルを取り入れて構築したもので、5つの看護視点(構成要素)から成り、“看護師一人一人の実践的理念”としていきます。

平成23年度は、具体的な展開として、ナイチンゲール理論ベースのKOMI[生活の処方箋システム](看護過程支援システム)を導入し、看護実践の理念が個々の看護師のアセスメント、計画として現場に反映できる体制にしました。

そして平成24年度は、この2年間の活動を評価し、更に看護実践の理念を着実に根付かせるための展開に力をいれています。中心メンバーとしてのKOMI推進者を選出、育成のための勉強会を定例化し、看護実践への浸透を図っています。推進者の今年の活動の柱(課題)は、「病気・症状を、看護の視点(KOMIの視点)で解く」でした。11月1日には、発表会を実施しました。精神科で見られる病気(「統合失調症」、「気分障害」他)、症状(「不眠」、「不安」他)を看護(KOMI)の視点で見事にまとめ上げ、解説してくれました。「実際の患者の症状の何故?が理解できるようになった。」「看護が楽しかった」「患者さんから優しくなった、よく笑うようになったと言われた」と担当者、参加者からの声が聞かれました。この中の3題は、12月のKOMI理論研修会九州支部で発表、多くの賛同と高い評価をいただきました。

これからも、「2010 HIZEN Nursing Spirit“ひとに寄り添い、こころに寄り添う看護”」を確実に実践し続けるための研鑽と努力を重ねていきたいと思っています。

KOMI推進担当看護師長 山崎 京子  
平野 雅子



### <理念の構成要素>

- 精神を病むひとの回復力に寄り添い、病の過程にあっても、そのひとの持っている力(備前能力)が発揮できるような援助の視点
- 精神を病むひとが回復力を促進できるような、生命力を消耗する要因を取り除く援助の視点
- 精神を病むひとの自らの回復力、回復の幅を広げ、更に持てる力を活用し備前能力の発動の視点
- 精神を病むひととケアする者との関係性と相互作用を重視する援助の視点
- 精神を病むひととそのひとを取り巻くあらゆる環境に働きかける援助の視点

<発表の様子>

テーマ: 自傷を繰り返す重症心身障害児(者)をKOMIの視点で見る



## プチ納涼祭

8月7日にプチ納涼祭が開催されました。昨年までは肥前グラウンドを使用してましたが、今年は新病棟建設工事の影響により、OT棟ホールで行われました。

今年は打ち上げ花火もなく残念でしたが、OT棟ホールで和太鼓チーム「馬田和太鼓 鼓響」による太鼓の演奏があり、最後はみんなで楽しく盆踊りを踊って過ごしました。



和太鼓チーム「馬田和太鼓 鼓響」のみなさん

## 第13回肥前音楽祭

10月3日に肥前音楽祭が開催されました。午前中は患者さんの歌あり踊りありのパフォーマンスでした。素敵な演奏、歌声は会場をとて盛り上げていました。

午後からは目達原駐屯地の自衛隊パフォーマンスがあり、懐かしい曲から最新の曲までとても迫力のある演奏でした。

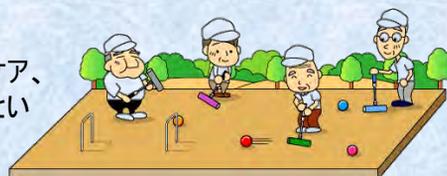
途中ダンスのパフォーマンスもあり、客席から大声援が送られていました。来年も皆さまのパフォーマンスを楽しみにしています。



陸上自衛隊目達原駐屯地の隊員のみなさん

## ゲートボール大会

10月11日にゲートボール大会が行われました。当院からはデイケア、東二ー1病棟が出場しました。肥前メンバー大健闘を果たし4位という結果となりました。みなさんお疲れ様でした。



## 平成24年度文化祭

11月27、28日に文化祭が開催されました。今年の文化祭は2日間あり、作品展、バザー、ステージパフォーマンスなど盛り沢山の内容でした。

今年の文化祭院長賞は東三ー1の『ディズニープリンセス砂絵』でした。下絵から全て手作りで、とても大きな作品は印象に残りました。また、ステージパフォーマンスでは、東二ー1病棟作詞・作曲の『ひぜん便り』が披露され、とても心温まる曲でした。来年の文化祭もぜひ期待して下さい。



# ひぜんオリジナル曲ができました～！

東二ー1病棟 看護師長 大久保 祐子

東二ー1病棟では、児童・思春期病棟に特化した教育・療育・病棟行事、つき合宿などのプログラムの他、余暇活動の中で歌(合唱)、ギター・ピアノ・ドラムなど、楽器を取り入れた音楽活動を始めました。

今では、余暇時間に自らギターを練習する子どもたち増えてきました。“音楽療法”とまでは及びませんが、音楽は療養生活に潤いと和みを与えてくれるのだと改めて感じています。そして、今回のオリジナル曲もそのような中から生まれました。これからも子ども達と一緒に、更に充実した活動に発展できればと考えています。

## ひぜん便り

作詞・作曲：東二ー1病棟

### 1. やさしさ集う 空の下

背振を仰ぎ 希望抱く

土筆のように たくましく 歩き続けてほしいから



前を向き 一歩踏みだそう

私を 待っている 人がいるから

心ふれあい 寄り添い歩く

春風に乗って 幸せ運ぶ

桜咲く春の日に 桜並木で あなたを待つよ



### 2. 笑顔が集う この町で

吉野の人が 歩き出す

飛び立つ鳥を 見上げては 道標(しるべ) 見つけてほしいから

手をつなぎ 輪を作ろう

私を 待っている 人がいるから

心ふれあい 寄り添い歩く

光り輝き 幸せ運ぶ

向日葵の咲く 夏の日 咲きほこる花に思いを込める



流れ星に 願いを込めて

あなたの 幸せ 祈っている

心ふれあい 寄り添い歩く

紅葉(もみじ)色づき 幸せ運ぶ

秋桜の咲く 秋の日に また二人で歩き始めよう



ララララ～ ララララ～

桜並木で あなたを待つよ

この歌は、一人の女の子の帰りを待っている大好きなお母さんからの、「元気でいますか。友達できましたか」の便りに、「きっと、元気になって帰るからね。友達もできたよ」としたためた手紙をベースに歌詞としたものです。

なお、今回の歌作りのコンセプトは“肥前ソング”とし、タイトルは当院の広報誌「ひぜんだより」と掛けました。

### ◆曲作りに携わった患者さんのコメント(コアメンバー)◆

(T. Sちゃん)

入院している私の帰りを待っている人を思い浮かべて書きました。詩を作るのになるべく前向きになるように努力しました。

(N. Cちゃん)

私は歌を歌うことが好きだし、みんなで楽しめたので、またやりたいと思いました。恥ずかしかったけどみんながいたので私も歌うことができました。とにかく楽しかったです。

(O. Sちゃん)

みんなと一緒に歌ってくれて嬉しかったです。みんなが居てくれたからちゃんと歌えました。みんなありがとう、退院するけどみんな元気だね。

(S. Cちゃん)

Sちゃんが作詞した「ひぜん便り」を歌いました。あまり大きな声は出せなかったけど、初めての文化祭で歌って楽しかったです。

(I. Yくん)

僕はみんなで楽しく歌えて良かったです。人前が出る緊張してしまうところがありますが、その時はあまり緊張せず無事にみんなで歌えたので良かったです。

(T. Tくん)

あまり歌うのは得意じゃないけど、みんなが近くにしてくれたから気持ちよく歌えました。一人よりみんなで歌ったほうが気持ち良いです。

### ◆作詞をアシストしたスタッフ◆

肥前に集う人々のやさしさや温かさ、移りゆく季節や美しい自然も表現できたら・・・と、思いました。

尚、歌詞のワンフレーズに宮平看護部長の看護部紹介(当院ホームページ)での一文を引用させていただきました。ご容赦下さい。

### ◆作曲をアシストしたスタッフ◆

いつの世でも、自分にまつわる様々な問題を音楽が解決するには至りません。しかし、喜びや悲しみ、悔しさ・・・そんな人々の心を癒したり励ましたりと、音楽には不思議なパワーが秘められています。

戦後、焼け野原の何もないうちで、人々の心を歌が支えてきました。ここに集う皆様が、この歌で心の輪を広げることができたら嬉しいです。



# 吉野ヶ里の名所 ◆道の駅吉野ヶ里 さざんか千坊館◆

今回は佐賀県と福岡県との県境、国道385号線沿いにある、『道の駅吉野ヶ里 さざんか千坊館』を取材！館長の堀田さんにお話を伺いました。

- (取材班) まず展望所からの景色がとても綺麗ですね。佐賀平野が一望できます！
- (館長) 今日は、少し霧が出ていますが、綺麗に晴れると奥の方に雲仙普賢岳を見ることもできますし、周辺には、国指定天然記念物の千石山サザンカ自生北限地、吉野ヶ里遺跡などがあります。
- (取材班) そうなんですね！！では、お客さんもかなり多いのではないですか？
- (館長) はい、非常に多くの方にご利用いただいております、週末になりますと駐車場が満車になることもしばしばです。山の上にあるにも関わらず、たくさんの方に来ていただいています。
- (取材班) こちらのイチオシを教えてください。
- (館長) イチオシは湧き水です。「さざんか千坊館」前にある給水所では、東脊振トンネル付近より湧き出るおいしい天然水が無料で汲めます。週末には1日に50トンの水が汲み取られています。
- (取材班) 50トですか、ものすごい量ですね！確かに給水所に行列ができています。かなり人気の様ですね！
- (館長) 店内には他にも、三瀬鶏の串焼き、やまめの塩焼き等が食べられるレストランも併設されていたり、地元農家で収穫された新鮮な農産物や脊振山系の天然水を使った焼きたてのパン等を味わうことができます。
- (取材班) 展望もよし、食べるもよし、買い物もよし、とても素敵な道の駅ですね！今日はお忙しいところ取材にご協力いただき、ありがとうございました！



この大きな看板が目印！



店内には地元農家で育てられた新鮮な野菜や果物がたくさん並んでいます！



無料の天然水を求めて毎日多くの人が訪れます



取材終了後、堀田館長と記念撮影。堀田館長、年末のお忙しい中、取材にご協力いただき、ありがとうございました！

(取材:大庭、梅山)

## これぞ1枚！シャッターチャンス！！

## はげ やま ◆櫛山の紅葉◆

十年に一度だけ色づく櫛山！！

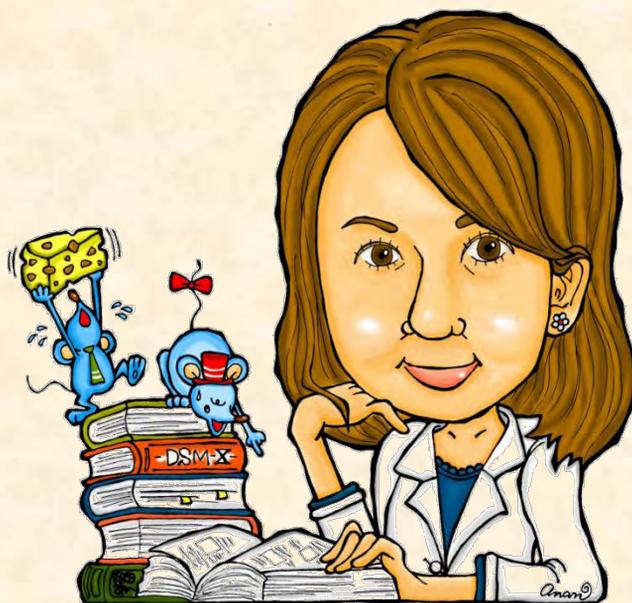


秋の紅葉を彩る櫛の木も10年に一度、燃え上がるように赤く色づきます。昨年がその10年に一度の年でした。

病院の隣町にある櫛山も、赤く染まっていました。

東四一病棟 看護師長 横田 研治





## 目 次

- P.1 ・初めての試み！第1回NHO精神科レジデントフォーラム
- P.2 ・初めての試み！肥前精神医学セミナー ～吉野ヶ里に伝わる臨床精神医学の奥儀～を開催
- P.3 ・認知症ケア研修を担当して
- P.4 ・国際学会で受賞しました  
・盛況 肥前セミナー二題
- P.5 ・明るい明日のための家族相談会（統合失調症家族相談会）について  
・KOMⅠ推進担当者発表会 一症状・病気をKOMⅠの視点でみるー
- P.6 ・肥前ニュース（ブチ納涼祭・第13回肥前音楽祭・ゲートボール大会・平成24年度文化祭）
- P7 ・ひぜんオリジナル曲ができました～！
- P8 ・吉野ヶ里の名所 「道の駅吉野ヶ里 さざんか千坊館」  
・これぞ1枚！シャッターチャンス！！◆櫛山の紅葉◆

### ◆編集後記◆

新年明けましておめでとうございます。厳しい寒さが続きますが、暖かい春が来るまでもう少しの辛抱ですね。第12号の表紙では冬をテーマにした写真、8頁に掲載の、「これぞ1枚！シャッターチャンス！！」では秋をテーマにした写真を掲載しました。写真を選びながら、日本には四季があり、それぞれの季節が演出する風景の素晴らしさに改めて感動させられました。(O.N)



## 患者様の権利

- 1.安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利
- 2.疾患の治療等に必要の情報を得、また教育を受ける権利
- 3.治療法を自由に選択し、決定する権利
- 4.プライバシーが守られる権利
- 5.常に人としての尊厳を守られる権利
- 6.医療上の苦情を申し立てる権利
- 7.継続して一貫した医療を受ける権利
- 8.QOLや生活背景に配慮された医療を受ける権利



平成25年1月31日発行

編集・発行：肥前総合情報誌編集委員会(橋本(喜)、仲地、櫻井、城島、郷原、山口、大庭、梅山、辻(里)、川口(亜)、天野、豊留、小野、久我、太田、宮下)

発行所：独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160

TEL 0952-52-3231 Fax 0952-53-2846

ホームページ <http://www.hizen-hosp.jp/>